



別記様式2-2号

## 視察研修等報告書

令和7年9月16日

坂井市議会

議長 佐藤 寛治 殿

会 派 名 新政さかい

報 告 者 辻人志

1. 日 時 令和7年9月3日（水）～令和7年9月4日（木）
2. 視察研修先 **東京ギフトショー(東京ビッグサイト)、産総研臨海副都心センター**
3. 視察研修内容 ①第100回東京ギフトショーの視察  
②産総研臨海副都心センターの視察
4. 参 加 者 辻人志  
(志政会後藤寿和議員、政友会川畑孝治議員・伊藤宏実議員同行)
5. 内容詳細・所感

### ●第100回東京ギフトショーの視察（9月3日）

東京ギフトショーは日本最大のパーソナルギフトと生活雑貨の国際見本市で、今回で100回目を迎えている。同時開催展として「第18回 LIFE×DESIGN」と「LIVING&DESIGN2025」、「第38回グルメショー秋2025」を行っている。

東京ギフトショーでは、さまざまな分野の企業が新製品や創意工夫にあふれた商品を出展しており、まだ世に出ていない商品をいち早く知ったり、最新のトレンドに触れたりできるので、ほぼ毎年視察している。

毎回気になっているのが都道府県や市町村など自治体が出展しているブースで、今回も自治体や自治体の支援を受けて出展している商工会や企業を中心に回った。

各ブースでは担当の方が地場産業や観光スポット、県産品などについて熱心に説明をしてくださったが、やはりインバウンドを意識した企画が多かった。パンフレットにも見た目の工夫をしており、どのパンフレットにも必ずQRコードが添付されているなど細かい配慮がされていた。

ギフトショー来場者層の幅は広く、外国人も多く見られた。坂井市の有名企業も福井県ブースで出店していたが、そのPR効果は大きいと思う。春と秋に開催される東京ギフトショーに出展する企業や商店に対する市の支援の拡充を求めている。

## ●産総研臨海副都心センターの視察（９月４日）

国立研究開発法人産業技術総合研究所（産総研）は国内に１２か所の研究拠点を持つ我が国最大級の公的研究機関で、日本の産業や社会に役立つ技術の創出とその実用化、そして新規事業開発を進めていくために必要な技術を事業化に繋げるための橋渡しを担っている。

今回訪問した臨海副都心センターは、国際研究交流大学村を構成する一機関として、２００１年の産総研発足と同時に開設された。ここでは、次世代ものづくり実装研究センター、ウェルビーイング実装研究センター、ゼロエミッション国際共同研究センター、細胞分子工学研究部門、人工知能研究センター、インテリジェントシステム研究部門、インテリジェントプラットフォーム研究部門、サイバーフィジカルセキュリティ研究部門および量子・ＡＩ融合技術ビジネス開発グローバル研究センターにおいて、ＡＩ・サイバーフィジカルシステム、ＧＸ、バイオを主要テーマに研究開発とその成果の社会実装を強力に推進している。

また、臨海副都心センターは東京の区内に位置する利便性を生かし、イノベーション・エコシステムを構築するプラットフォームとしての役割を果たしており、産学官や海外から多くのステークホルダーが集う国際的な研究・交流拠点となっている。

さらに、企業との大型共同研究を推進する連携研究室・ラボやコンソーシアムを多数設置するとともに、スタートアップ企業や技術研究組合の受け入れ、共用施設の公開、近隣機関との連携、研究成果の展示などの広報活動を積極的に展開している。

今回視察させていただいた『ライフ・テクノロジー・スタジオ』は、『出会う、つながる、はじまる』をテーマに産学官連携を目的とした展示施設で、臨海副都心センターで研究している最新の研究成果が展示されている。具体的には少子高齢化によって人手が不足している町工場で作業補助を行う汎用人型ロボットや動物を連れて行くことができない病院や介護施設などでアニマルセラピーを行うセラピー用ロボット、いくつかの質問に答えるとおススメを理由付きで提示してくれるＡＩ搭載サイネージ型自販機など既に実用化されているＡＩロボットなどを紹介していただいた。イニシャルコストは高くつくものの、比較的安価なランニングコストや作業効率、波及効果などを考えると、坂井市内の工場や施設でも導入が可能であると考えます。

今回拝見したのは産総研で行っている研究のごく一部だが、今後の社会や私たちの生活を変革するような夢のある研究開発を行う産総研の取り組みに期待したい。

## 6. 添付書類

- ① 視察時の写真
- ② 産総研臨海副都心センターでの面会者の名刺コピー
- ③ 産総研臨海副都心センターのパンフレット（英語版）



▲東京ギフトショー(東京ビッグサイト)



▲産総研臨海副都心センター